

## 2023(令和5)年度公共用水域の水質測定計画(案)について

「河川水質環境基準に係る類型指定(令和5年1月20日:大阪府公告)」及び「公共用水域常時監視の効率化及び重点化についての基本的考え方(以下「効率化・重点化の基本的考え方」という。)」を踏まえて、以下のとおり「2022年度公共用水域の水質測定計画」の測定地点や測定回数等を変更し、「令和5年度公共用水域の水質測定計画(以下「令和5年度水質測定計画」という。)」を作成することとする。

### 1. 河川水質環境基準に係る類型指定改定に伴う変更

令和5年1月20日に公告された「河川水質環境基準に係る類型指定」の18河川水域については、令和5年度から新たな類型の環境基準で評価を行うこととする。

令和5年度水質測定計画は、改定等を行った表1の河川水域のうち、初めてB類型に指定された水域の大腸菌数と、新たに生物B類型に指定された水域の水生生物3項目等について、測定回数を設定する。

表1 河川水質環境基準に係る類型指定改定(令和5年1月20日告示)

(1) 上位類型への改定(BOD等5項目:16河川水域、水生生物3項目:8河川水域)

水系名	河川水域名	範囲	類型改定内容	
			BOD等5項目	水生生物3項目
淀川	檜尾川	全域	Bイ → Aイ	改定なし
寝屋川	寝屋川(2)	住道大橋より下流	Dロ → Cロ	生物Bロ(新規)
	古川	全域	Dロ → Cロ	生物Bハ(新規)
	平野川分水路	全域	Dイ → Cイ	生物Bハ(新規)
	平野川	全域	Dイ → Cイ	生物Bハ(新規)
大阪市内河川	土佐堀川	全域	Cイ → Bイ	改定なし
大和川	石川	全域	Bイ → Aイ	改定なし
	西除川(2)	狭山池流出端より下流	Dロ → Cイ	生物Bハ(新規)
泉州諸河川	石津川	全域	Dイ → Bイ	生物Bロ(新規)
	和田川	全域	Cロ → Bイ	改定なし
	牛滝川	全域	Bロ → Aイ	改定なし
	春木川	全域	Dイ → Cイ	生物Bロ(新規)
	津田川	全域	Eイ → Dイ	—
	見出川	全域	Eイ → Dロ	—
	佐野川	全域	Eイ → Dイ	—
	樫井川下流	兔田橋より下流	Eイ → Cイ	生物Bロ(新規)

(2) 類型範囲の変更(神崎川水系・安威川)

河川水域名	類型範囲		BOD等5項目	水生生物項目	環境基準点
	現行	変更案			
安威川上流	茨木市取水口より上流	安威川ダム流出端より上流	改定なし	改定なし	車作大橋(新設)
安威川下流(1)	茨木市取水口から大正川合流点まで	安威川ダム流出端から茨木川合流点まで	改定なし	取水口より下流のみ改定 生物Bイ → 生物Aイ	桑ノ原橋
安威川下流(2)		茨木川合流点から大正川合流点まで	改定なし	改定なし	宮島橋
安威川下流(3)	大正川合流点より下流	大正川合流点より下流	Bロ → Bイ	改定なし	新京阪橋

## 2. 「効率化・重点化の基本的考え方」に基づく変更

### (1) 水質

大阪府内で水質の常時監視を行っている河川139地点及び海域22地点について、過去5年間の水質の状況と「効率化・重点化の基本的考え方」を踏まえて、効率化及び重点化する測定地点を抽出し、前記1. 河川水質環境基準に係る類型指定改定も考慮した測定回数の変更内容は表2のとおりである。また、ローリング調査対象地点も含め、表3のとおり、令和5年度水質測定における生活環境項目等項目別の変更内容を整理した。

表2 測定地点ごとの測定回数の変更内容

【河川】効率化(26地点)、重点化(21地点)

測定機関	河川水域名 河川名	環境基準 環境基準 (水生生物の 保全)	測定地点	環境基準 測定地点	測定項目	測定回数 の変更	変更理由	表3 該当 番号		
近畿地方整備局	猪名川上流	A	生物B	銀橋	特殊項目	亜硝酸性窒素	減少 12 → 4	健康項目の硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素に合わせて変更	⑰	
					特殊項目	硝酸性窒素	減少 12 → 4	健康項目の硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素に合わせて変更	⑰	
					健康項目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	減少 12 → 4	過去の検出状況等に基づく効率化(過去10年間、環境基準値の1/10以下)	⑪	
					要監視項目	ニッケル	減少 4 → 2	計画規定回数より多いため、過去の検出状況等に基づき効率化(過去10年間、検出無し)	⑳	
				軍行橋	特殊項目	亜硝酸性窒素	減少 12 → 4	健康項目の硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素に合わせて変更	⑰	
						硝酸性窒素	減少 12 → 4	健康項目の硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素に合わせて変更	⑰	
					健康項目	砒素	増加 4 → 12	過去の検出状況等に基づく重点化(過去10年間で環境基準値の1/2を上回る検出あり)	⑨	
						硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	減少 12 → 4	過去の検出状況等に基づく効率化(過去10年間、環境基準値の1/10以下)	⑪	
					利倉橋	要監視項目	キシレン	減少 2 → 〇	過去の検出状況等に基づく効率化(過去10年間、検出無し。3年ローリングに移行。)	⑳
					国笠橋	特殊項目	銅、溶解性鉄	減少 1 → 〇	過去の検出状況等に基づく効率化(過去5年間、排水基準値の1/20以下。3年ローリングに移行。)	⑯
大阪府	余野川	A	生物A	猪名川合流直前	生活環境項目	pH、DO、BOD、COD、SS、大腸菌数(6項目)	増加 4 → 12	過去の検出状況等に基づく重点化(生活環境項目の測定を効率化した地点でBODが環境基準を超過したため重点化)	①	
	大津川	C	生物B	大津川橋	生活環境項目(水生生物)	LAS	減少 4 → 2	過去の検出状況等に基づく効率化(過去5年以上、環境基準値の1/2以下)	⑦	
	櫻井川下流	C(改定)	生物B(新規)	櫻井川橋	生活環境項目(水生生物)	全亜鉛	増加 2 → 4	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②	
					生活環境項目(水生生物)	ノニルフェノール、LAS	増加 - → 4	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②	
					要監視項目	4-t-オクタフルフェノール、アニリン、2,4-ジクロロフェノール(3項目)	増加 - → ①	環境基準類型指定の改定に伴う新規ローリング開始(3年ローリング)	⑳	
	神崎川	B	生物B	千船橋	健康項目	鉛	減少 4 → 2	過去の検出状況等に基づく効率化(過去5年以上、環境基準値の1/2以下)	⑪	
	道川頓堀	B	生物B	大黒橋	健康項目	鉛	減少 4 → 2	過去の検出状況等に基づく効率化(過去5年以上、環境基準値の1/2以下)	⑪	
	東川横堀	B	生物B	本町橋	健康項目	鉛	減少 4 → 2	過去の検出状況等に基づく効率化(過去5年以上、環境基準値の1/2以下)	⑪	
	堂島川	B	生物B	天神橋	生活環境項目(水生生物)	全亜鉛	増加 4 → 12	過去の検出状況等に基づく重点化(過去5年間で、環境基準値の超過あり)	①	
	尻無川	B	生物B	基兵衛渡	生活環境項目(水生生物)	全亜鉛	増加 4 → 12	過去の検出状況等に基づく重点化(過去5年間で、環境基準値の超過あり)	①	
大連河川	B	生物B	船町渡	生活環境項目(水生生物)	全亜鉛	増加 4 → 12	過去の検出状況等に基づく重点化(過去5年間で、環境基準値の超過あり)	①		
大阪市	寝屋川(2)	C(改定)	生物B(新規)	今津橋	生活環境項目(水生生物)	全亜鉛	増加 1 → 4	過去の検出状況等に基づく重点化(過去5年間で、環境基準値の超過あり)(類型変更予定の反映含む)	①	
				京橋	生活環境項目(水生生物)	全亜鉛	増加 1 → 4	過去の検出状況等に基づく重点化(過去5年間で、環境基準値の超過あり)(類型変更予定の反映含む)	①	
	古川	C(改定)	生物B(新規)	徳栄橋	生活環境項目(水生生物)	全亜鉛	増加 1 → 4	過去の検出状況等に基づく重点化(過去5年間で、環境基準値の超過あり)(類型変更予定の反映含む)	①	
	第二寝屋川	D	-	下城見橋	生活環境項目(水生生物)	全亜鉛	増加 1 → 4	過去の検出状況等に基づく重点化(過去5年間で、環境基準値の超過あり)	①	
	分水野路川	C(改定)	生物B(新規)	天王田大橋	生活環境項目(水生生物)	全亜鉛	増加 1 → 4	過去の検出状況等に基づく重点化(過去5年間で、環境基準値の超過あり)(類型変更予定の反映含む)	①	
	平野川	C(改定)	生物B	南弁天橋	生活環境項目(水生生物)	全亜鉛	増加 1 → 4	過去の検出状況等に基づく重点化(過去5年間で、環境基準値の超過あり)(類型変更予定の反映含む)	①	
				城見橋	生活環境項目(水生生物)	全亜鉛	増加 1 → 4	過去の検出状況等に基づく重点化(過去5年間で、環境基準値の超過あり)(類型変更予定の反映含む)	①	

測定機関	河川水域名 河川名	環境基準	環境基準 (水生生物の 保全)	測定地点	環境基準 地点	測定項目		測定回数 の変更		変更理由	表3 該当 番号
堺市	(西 2除 川)	C (改定)	生物B (新規)	大和川合 流直前	○	生活環境項目	pH	減少	48 → 24	日採水回数の変更に伴う減少	⑥
	狭間 川	—	—	狭間橋	●	生活環境項目	pH	減少	16 → 8	日採水回数の変更に伴う減少	⑥
	内 水路 放	—	—	古川橋	●	生活環境項目	pH	減少	16 → 8	日採水回数の変更に伴う減少	⑥
	内 川	—	—	堅川橋	●	生活環境項目	pH	減少	16 → 8	日採水回数の変更に伴う減少	⑥
	石津 川	新川橋	B (改定)	生物B (新規)	○	生活環境項目	pH	減少	16 → 8	日採水回数の変更に伴う減少	⑥
						生活環境項目	大腸菌数	増加	— → 4	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②
						生活環境項目 (水生生物)	ノニルフェノール、LAS	増加	— → 2	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②
						要監視項目	フェノール、ホルムアルデヒド	増加	— → ⊖	環境基準類型指定の改定に伴う新規ローリング 開始(3年ローリング)	⑳
		石津川橋			生活環境項目	pH	減少	48 → 24	日採水回数の変更に伴う減少	⑥	
					生活環境項目	大腸菌数	増加	— → 12	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②	
					生活環境項目 (通日測定)	大腸菌数	増加	— → 13	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②	
					生活環境項目 (水生生物)	全亜鉛	増加	2 → 4	過去の検出状況等に基づく重点化	①	
					生活環境項目 (水生生物)	ノニルフェノール、LAS	増加	— → 4	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②	
					健康項目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	増加	⊖ → 2	過去の検出状況等に基づく重点化	⑨	
		毛穴大橋			生活環境項目	pH	減少	16 → 8	日採水回数の変更に伴う減少	⑥	
					生活環境項目	大腸菌数	増加	— → 4	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②	
					生活環境項目 (水生生物)	全亜鉛	増加	1 → 2	過去の検出状況等に基づく重点化	①	
		百 済 川			—	—	高入橋	●	生活環境項目	pH	減少
	百 川 舌 島	—	—	北条橋	●	生活環境項目	pH	減少	16 → 8	日採水回数の変更に伴う減少	⑥
	和 田 川	B (改定)	生物B	小野々井 橋	○	生活環境項目	pH	減少	48 → 24	日採水回数の変更に伴う減少	⑥
						生活環境項目	大腸菌数	増加	— → 12	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②
生活環境項目 (水生生物)						ノニルフェノール、LAS	減少	4 → 2	過去の検出状況等に基づく効率化 (過去5年間、環境基準値以下)	⑦	
健康項目						カドミウム、全シアン、鉛、六価クロ ム、砒素、総水銀、セレン(7項目)	効率化 のある 増加	⊖ → ②	・ローリング調査による変更(2年ローリングを継 続) ・過去の検出状況等に基づく効率化(④→②) (過去5年間、環境基準値の1/2以下)	⑪	
陶 器 川	—	—	百年橋	●	生活環境項目	pH	減少	16 → 8	日採水回数の変更に伴う減少	⑥	
岸 和 田 市	春 木 川	C (改定)	生物B (新規)	春木橋	○	生活環境項目 (水生生物)	全亜鉛	増加	1 → 4	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②
						生活環境項目 (水生生物)	ノニルフェノール、LAS	増加	— → 4	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②
						要監視項目	水生生物(全項目)	増加	— → 1	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②
茨 木 市	安 威 川 上 流	A	生物A	車作大橋	○	生活環境項目	pH	増加	— → 24	測定地点の変更に伴う増加	③
						生活環境項目	DO、BOD、COD、SS、大腸菌数	増加	— → 12	測定地点の変更に伴う増加	③
						生活環境項目	全窒素、全りん	増加	— → 4	測定地点の変更に伴う増加	③
						生活環境項目 (水生生物)	全亜鉛	増加	— → 4	測定地点の変更に伴う増加	③
						生活環境項目 (水生生物)	ノニルフェノール、LAS	増加	— → 4	測定地点の変更に伴う増加	③
						健康項目	PCB	増加	— → 1	測定地点の変更に伴う増加	⑩
						健康項目	PCBを除く全項目	増加	— → 2	測定地点の変更に伴う増加	⑩
						特殊項目	亜硝酸性窒素、硝酸性窒素	増加	— → 2	測定地点の変更に伴う増加	⑮
						特殊項目	亜硝酸性窒素、硝酸性窒素を除く全 項目(9項目)	増加	— → 1	測定地点の変更に伴う増加	⑮
						要監視項目	全項目	増加	— → 1	測定地点の変更に伴う増加	㉑

測定機関	河川水域名 河川名	環境基準	環境基準(水生生物の保全)	測定地点	環境基準点	測定項目		測定回数の変更		変更理由	表3該当番号
茨木市	安威川下流(1)	A	生物A	桑ノ原橋	○	生活環境項目	pH	増加	8 → 24	安威川ダム供用開始に伴う流況変化の確認のため増加	④
						生活環境項目	DO, BOD, COD, SS, 大腸菌数	増加	4 → 12	安威川ダム供用開始に伴う流況変化の確認のため増加	④
						特殊項目	亜硝酸性窒素、硝酸性窒素を除く全項目(9項目)	減少	2 → 1	過去の検出状況等に基づく効率化	⑯
						要監視項目	水生生物6項目、PFOS及びPFOA	増加	① → 1	安威川ダム供用開始に伴う流況変化の確認のため増加	㉓
	安威川下流(1)・(2)	A	生物A	千歳橋	●	生活環境項目	pH	減少	8 → -	測定地点の廃止に伴う減少	⑧
						生活環境項目	DO, BOD, COD, SS, 大腸菌数	減少	4 → -	測定地点の廃止に伴う減少	⑧
						生活環境項目	全窒素、全りん	減少	2 → -	測定地点の廃止に伴う減少	⑧
						生活環境項目(水生生物)	全亜鉛	減少	2 → -	測定地点の廃止に伴う減少	⑧
						健康項目	PCB、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素を除く22項目	減少	② → -	測定地点の廃止に伴う減少	⑫
						健康項目	PCB	減少	① → -	測定地点の廃止に伴う減少	⑫
						健康項目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素(3項目)	減少	2 → -	測定地点の廃止に伴う減少	⑫
						特殊項目	ノルマルヘキサン抽出物質、フェノール類、全クロム、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素を除く6項目	減少	1 → -	測定地点の廃止に伴う減少	⑯
						特殊項目	ノルマルヘキサン抽出物質、フェノール類、全クロム(3項目)	減少	① → -	測定地点の廃止に伴う減少	⑯
						特殊項目	亜硝酸性窒素、硝酸性窒素(2項目)	減少	2 → -	測定地点の廃止に伴う減少	⑯
八尾市	恩智川	C	生物B	福栄橋下流100m	●	健康項目	1,3-ジクロロプロペン、テウラム、シマジン、チオベンカルブ(4項目)	減少	2 → 1	過去の検出状況等に基づく効率化(過去5年間以上、環境基準値の1/2以下)	⑪
	玉串川	-	-	JAグリーン大阪前	●	健康項目	1,3-ジクロロプロペン、テウラム、シマジン、チオベンカルブ(4項目)	減少	2 → 1	過去の検出状況等に基づく効率化(過去5年間以上、環境基準値の1/2以下)	⑪
	浦根川	-	-	新家東橋	●	健康項目	1,3-ジクロロプロペン、テウラム、シマジン、チオベンカルブ(4項目)	減少	2 → 1	過去の検出状況等に基づく効率化(過去5年間以上、環境基準値の1/2以下)	⑪
	平野川	C	生物B	東竹測橋	●	生活環境項目(水生生物)	全亜鉛	増加	1 → 2	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②
						生活環境項目(水生生物)	ノニルフェノール、LAS	増加	0 → 2	環境基準類型指定の改定に伴う増加	②
						健康項目	1,3-ジクロロプロペン、テウラム、シマジン、チオベンカルブ(4項目)	減少	2 → 1	過去の検出状況等に基づく効率化(過去5年間以上、環境基準値の1/2以下)	⑪
	大正川	-	-	平野川合流直前	●	健康項目	1,3-ジクロロプロペン、テウラム、シマジン、チオベンカルブ(4項目)	減少	2 → 1	過去の検出状況等に基づく効率化(過去5年間以上、環境基準値の1/2以下)	⑪

### 【海域】 効率化 (1地点)

測定機関	水域名	環境基準	環境基準(全窒素・全りん)	環境基準(全亜鉛)	環境基準(水生生物の保全)	測定地点	環境基準点	測定項目		測定回数の変更		変更理由	表3該当番号
大阪府	海城A八	大阪湾(口)	海城田イ	大阪湾(全球)	Aイ	A-2	◎	健康項目	ベンゼン	減少	2 → ①	過去の検出状況に基づく効率化(過去10年間以上、検出下限値未満。ローリング調査に移行、3年ローリングとする。)	⑪

※1 既存のローリング調査による変更以外を記載。

※2 「測定回数の変更」の丸囲み数字(①②)は数年一度調査を実施するローリング調査導入地点を示す。円内の数字は測定回数を示し、-は測定しないことを示す。

※3 「環境基準点」の◎印は環境基準点、●印は準基準点を示す。

表3 令和5年度水質測定における変更内容

				R5年度測定地点数 (R4年度測定地点数)		河川 139 (139)	海域 22 (22)	
項目区分	測定回数 の変更内容	変更理由	項目名	変更地点数 【変更項目測定回数 (項目数×測定回数)】		R5年度項目測定回数 (R4年度項目測定回数)		
				河川	海域	河川	海域	
生活環境項目	増加	①	重点化 (過去の検出状況等から判断し回数を増やすもの)	pH、DO、BOD、COD、SS、大腸菌数、全亜鉛	13 【+96】	—	12,121 (11,954)	2,540 (2,540)
		②	環境基準類型指定の改定に伴う増加	大腸菌数、全亜鉛、ノニルフェノール、LAS	7 【+83】	—		
		③	測定地点の変更に伴う増加	pH、DO、BOD、COD、SS、大腸菌数、全窒素、全りん、全亜鉛、ノニルフェノール、LAS	1 【+104】	—		
		④	安威川ダム供用開始に伴う 流況変化の確認のため増加	pH、DO、BOD、COD、SS、大腸菌数	1 【+56】	—		
		⑤	既存のローリング調査により 増減するもの	ノニルフェノール、LAS	1 【+4】	—		
	減少	⑥	効率化 (1日の採水回数の変更により回数を減らすもの)	pH	11 【-136】	—		
		⑦	効率化 (過去の検出状況等に基づく効率化)	ノニルフェノール、LAS	2 【-6】	—		
		⑧	測定地点の廃止に伴う減少	pH、DO、BOD、COD、SS、大腸菌数、全窒素、全りん、全亜鉛	1 【-34】	—		
健康項目	増加	⑨	重点化 過去の検出状況等に基づく重点化	砒素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	2 【+10】	—	7,166 (7,203)	709 (710)
		⑩	測定地点の変更に伴う増加	カドミウム、全シアン、六価クロム、総水銀、PCB等26項目	1 【+51】	—		
		⑪	効率化 (過去の検出状況等から判断し回数を減らす又は新規ローリング調査へ移行するもの)	カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、セレン 鉛、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン等7項目	1 【+14】	—		
	減少	⑫	測定地点の廃止に伴う減少	カドミウム、全シアン、六価クロム、総水銀、PCB等26項目	10 【-42】	1 【-2】		
		⑬	既存のローリング調査により 増減するもの	カドミウム、全シアン、六価クロム、総水銀、PCB等26項目	1 【-51】	—		
	増加	⑭	既存のローリング調査により 増減するもの	カドミウム、全シアン、総水銀等の26項目	4 【+104】	5 【+225】		
減少	⑮	既存のローリング調査により 増減するもの	カドミウム、全シアン、総水銀等の26項目	5 【-123】	6 【-224】			
特殊項目	増加	⑯	健康項目に合わせて 回数を増やすもの	硝酸性窒素、亜硝酸性窒素	1 【+4】	—	2,761 (2,823)	2,666 (2,671)
		⑰	測定地点の変更に伴う増加	フェノール類、銅、溶解性鉄、硝酸性窒素等11項目	1 【+13】	—		
	減少	⑱	効率化 (過去の検出状況等から判断し回数を減らすもの)	フェノール類、銅、溶解性鉄等9項目	2 【-11】	—		
		⑲	健康項目に合わせて 回数を減らすもの	硝酸性窒素、亜硝酸性窒素	2 【-32】	—		
		⑳	測定地点の廃止に伴う減少	フェノール類、銅、溶解性鉄、硝酸性窒素等11項目	1 【-13】	—		
	増加	㉑	既存のローリング調査により 増減するもの	ノルマルヘキサン抽出物質、フェノール類、銅、溶解性鉄、溶解性マンガン、全クロム、硝酸性窒素、亜硝酸性窒素	24 【+32】	11 【+56】		
減少	㉒	既存のローリング調査により 増減するもの	ノルマルヘキサン抽出物質、フェノール類、銅、溶解性鉄、溶解性マンガン、全クロム、硝酸性窒素、亜硝酸性窒素	24 【-55】	13 【-61】			
特定項目	変更なし			—	—	57 (57)	—	
要監視項目	増加 増減なし	㉓	環境基準類型指定の改定に伴う増加又は新規ローリングの開始	フェノール、ホルムアルデヒド、4-t-オクチルフェノール、アニリン、2,4-ジクロロフェノール	2 【+8】	—	1,701 (1,561)	—
				クロロホルム、トルエン等の全32項目	1 【+32】	—		
	増加	㉔	安威川ダム供用開始に伴う 流況変化の確認のため増加	クロロホルム、PFOS及びPFOA等7項目	1 【±0】	—		
	減少	㉕	効率化 (過去の検出状況等から判断し回数を減らす又は新規ローリング調査へ移行するもの)	ニッケル、キシレン	2 【-4】	—		
	増加 減少	㉖	既存のローリング調査により 増減するもの	クロロホルム、トランス-1,2-ジクロロエチレン等の全32項目	85 【+1,044】	—		
79 【-940】	—							
測定検体数合計(水質)						23,806 (23,598)	5,915 (5,921)	

(2) 底質

底質測定における変更内容は、既存のローリング調査により増減するもののみで、表4に示すとおりである。

表4 底質測定における変更内容

				R5年度測定地点数 (R4年度測定地点数)		河川 50 (50)	海域 15 (15)
項目区分	測定回数 の変更内容	変更理由	項目名	変更地点数 【変更項目測定回数 (項目数×測定回数)】		R5年度項目測定回数 (R4年度項目測定回数)	
				河川	海域	河川	海域
健康項目 一般項目	増加	既存のローリング調査により 増減するもの	カドミウム・全シアン・鉛・pH 等の15項目	12 【+24】	5 【+110】	54 (58)	110 (110)
	減少		カドミウム・全シアン・鉛・pH 等の15項目	14 【-28】	5 【-110】		